



## 設定データのインポート

この章では、[一括管理(Bulk Administration)]メニューを使用して Cisco Unified Communications Manager に設定データをインポートする方法について説明します。

既存のエンタープライズパラメータやサービスパラメータは、インポート/エクスポートを使用しないと更新できません。インポート .csv ファイルに IPMA に固有のテンプレートがある場合は、インポート トランザクションを実行する前に、必ず、ターゲットサーバで IPMA ウィザードを実行してください。

- [サーバへの設定のインポート, 1 ページ](#)
- [依存関係にあるエンティティの段階的なインポート, 3 ページ](#)
- [上書き更新, 5 ページ](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード, 6 ページ](#)
- [\[インポート/エクスポート\(Import/Export\)\]メニューに関連する項目, 6 ページ](#)

## サーバへの設定のインポート

[一括管理(Bulk Administration)]メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager に設定データをインポートすることができます。

エンタープライズパラメータまたはサービスパラメータを正しくインポートするには、インポートを実行している Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンタープライズパラメータ(Enterprise Parameter)] ウィンドウまたは [サービスパラメータ(Service Parameter)] ウィンドウで、パラメータを更新する必要があります。この場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンタープライズパラメータ(Enterprise Parameter)] ウィンドウまたは [サービスパラメータ(Service Parameter)] ウィンドウで、インポートを実行する前に、何も変更しないで [保存(Save)] をクリックします。



**注目** 既存のエンタープライズパラメータやサービスパラメータは、インポート/エクスポートを使用しないと更新できません。パラメータの一部がデータベースで見つからない場合は、パラメータのインポートが失敗します。

[既存の設定の上書き(Override the existing configuration)] オプションを使用して、項目がすでにサーバ上に存在する場合にその項目が BPS によって更新され、存在しない場合に挿入されるようにすることができます。上書きオプションを使用して電話機またはユーザデバイスプロファイルをインポートしても、IP Phone サービスは更新されませんが、既存のエンティティセットに対する付加だけは行われます。



(注) 同じ名前を持つ複数の IP Phone サービスを使用できますが、これらのサービスを区別する一意のキーがないため、インポート/エクスポートで更新するサービスを決定できず、代わりにサービスが付加されます。

### はじめる前に

インポート .csv ファイルに IPMA に固有のテンプレートがある場合は、インポート トランザクションを実行する前に、必ず、ターゲットサーバで IPMA ウィザードを実行してください。

### 手順

- ステップ 1** [一括管理(Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート(Import/Export)] > [インポート(Import)] の順に選択します。  
[インポート設定(Import Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名(File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[次へ(Next)] をクリックします。  
(注) [ファイル名(File Name)] ドロップダウンリストボックスに、アップロードした .tar ファイルがすべて表示されます。
- ステップ 3** [インポート設定(Import Configuration)] セクションに、.tar ファイルのすべてのコンポーネントが表示されます。インポートするオプションに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** 項目が存在する場合にその項目が BPS によって更新され、存在しない場合に挿入されるようにするには、[既存の設定の上書き(Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。  
既存の設定の上書きは、オプションです。  
(注) ファイルに変更を加えた場合は、更新中にファイル名とファイル形式を変更しないでください。
- ステップ 5** [すべて選択(Select All)] をクリックすると、すべてのオプションを一度に選択でき、[すべてクリア(Clear All)] をクリックするとすべての選択を解除できます。
- ステップ 6** 対応するオプションボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択します。
- ステップ 7** [送信(Submit)] をクリックして、選択したデータをインポートするジョブを作成します。  
[ステータス(Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

- ステップ 8** [一括管理(Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ(Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

### 次の作業

job-run が失敗した場合、修正した同じ tar ファイルを実行すると上書きできます。



- (注) Cisco Unified Communications Manager サーバを作成すると、バックグラウンドでデータベーストリガーが実行され、会議ブリッジ (CFB) やメディアターミネーションポイント (MTP) などのエンティティが自動的に作成されます。これらのエンティティには、CFB\_1 や MTP\_1 などの名前が付いています。

ユーザがこの情報を TAR ファイルにエクスポートし、別の Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすると、CFB や MTP などの項目が作成されます。別の Cisco Unified Communications Manager サーバでの名前は、インポート前と同じであることも、違う名前になることもあります。

### 関連トピック

[ログファイル](#)

[サーバへのファイルのアップロード](#)

## 依存関係にあるエンティティの段階的なインポート

Cisco Unified Communications Manager の一部のエンティティは互いに依存しており、一方をインポートしなければ他方をインポートできません。[インポート/エクスポート(Import/Export)] では、そのようなエンティティのインポートプロセスを 2 段階の手順で実行します。

- 1 補助エンティティの値を空白にして、優先度が高いほうのエンティティを最初にインポートします。



- (注) これは、補助エンティティの値が最初の時点で利用できないためです。

- 2 .tar 内のすべてのエンティティをインポートした後に、[インポート/エクスポート(Import/Export)] では補助エンティティの値で優先度が高いほうのエンティティを更新し、インポートプロセスを完了します。



- (注) 補助エンティティの値は、次の段階で利用可能になります。

## 例

依存関係にあるエンティティの段階的なインポート方法については、次の例を参考にしてください。

デバイス プールおよびメディア リソース グループ リスト (MRGL) : デバイス プール (優先度が高いほうのエンティティ) は、最初に MRGL (補助エンティティ) をブランクの値にしてインポートされます。これは MRGL の値がその時点で利用できないためです。tar ファイル内のすべてのエンティティをインポートした後に、[インポート/エクスポート(Import/Export)] ではデバイス プールを更新し、MRGL のブランクの値を正しい値で置き換えて、インポートプロセスを完了します。

依存関係があり、段階的にインポートする必要のあるエンティティは次のとおりです。

- デバイス プールおよびMRGL
- デバイス プールおよびルート グループ
- パーティションおよびタイム スケジュール
- アプリケーション ユーザおよびユーザ グループ
- ライセンス

## サンプル レコード

### devicepool.csv

```
DEVICE POOL NAME,CISCO UNIFIED CALLMANAGER GROUP,DATE/TIME GROUP,REGION,SRST REFERENCE,CALLING
SEARCH SPACE FOR AUTO-REGISTRATION,AAR CALLING SEARCH SPACE,DEVICE MOBILITY CALLING SEARCH
SPACE,MEDIA RESOURCE GROUP LIST,LOCATION,NETWORK LOCALE,CONNECTION MONITOR DURATION,DEVICE
MOBILITY GROUP,AAR GROUP,REVERTED CALL FOCUS PRIORITY,LOCAL ROUTE GROUP,CALLING PARTY
TRANSFORMATION CSS,CALLED PARTY TRANSFORMATION CSS,INCOMING CALLING PARTY NATIONAL NUMBER
PREFIX,INCOMING CALLING PARTY INTERNATIONAL NUMBER PREFIX,INCOMING CALLING PARTY UNKNOWN
NUMBER PREFIX,INCOMING CALLING PARTY SUBSCRIBER NUMBER PREFIX,PHYSICAL LOCATION
Branch_0000,CMG 1 Phones,Central,region_0001,Disable,NULL,NULL,NULL,Intrn_MRGL-1_Volkswagen
Intn.,,NULL,-1,NULL,NULL,Default,NULL,NULL,NULL,Default,Default,Default,Default,NULL
```

### mediaresourcegrouplist.csv

```
NAME,MEDIA RESOURCE GROUP 1, SORT ORDER 1
Intrn_MRGL-1_Volkswagen Intn.,,
```



(注) [インポート/エクスポート(Import/Export)] では、依存関係にあるエンティティをインポートすると、2つのログ ファイルが生成されます。最初のログ ファイルは、最初のエンティティの挿入ステータスを示しています。もう一方は、最初のエンティティが補助エンティティの値で正常に更新されたかどうかを示しています。

## インポートまたはエクスポートでサポートされない項目

次の項目はインポートまたはエクスポートでサポートされません。

- ダイアルプラン インストーラ

- ルートプラン レポート
- MOH オーディオ ソース
- 固定 MOH オーディオ ソース
- MOH オーディオ ファイル管理
- Cisco ボイス メール ポート ウィザード
- ファームウェア ロード情報
- ライセンス
- アナウンス

## 上書き更新

[インポート/エクスポート(Import/Export)] は、Cisco Unified Communications Manager データベースの次のエンティティの挿入の機能はサポートしていません。これらのエンティティは、上書き更新のみです。

- [Cisco Unified CM]
- [LDAPシステム(LDAP System)]
- [エンタープライズパラメータ(Enterprise Parameters)]
- [サービスパラメータ(Service Parameter)]
- [モビリティの設定(Mobility Configuration)]
- [アナウンサー(Annunciator)]/[MOHサーバ(MOH Server)] : Cisco Unified Communications Manager サーバが作成されると、データベース トリガーによって MOH サーバやアナウンサーなどのエンティティが作成されます。この情報を TAR ファイルにエクスポートし、別の Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすると、システム トリガーによって MOH サーバやアナウンサーなどのエンティティが作成されます。[インポート/エクスポート(Import/Export)] では、既存の MOH サーバとサーバとのアソシエーション、または既存のアナウンサーとサーバとのアソシエーションの更新だけがサポートされます。インポートする前に、CSV ファイルに有効なアソシエーションが確実に含まれるように TAR ファイルを編集できます。先にサーバをインポートしてから、作成されるアソシエーションに基づいて CSV ファイルを編集し、上書きでインポートすることをお勧めします。
- [デバイスのデフォルト(Device Defaults)]
- [クレデンシャルポリシーのデフォルト(Credential Policy Default)]
- [証明書(Certificate)] : 新しい証明書は Cisco Unified Communications Manager の管理ページで作成または更新できないため、[インポート/エクスポート(Import/Export)] では既存の証明書の更新だけがサポートされます。証明書の [キャッシュの有効期間(Duration in Cache)] パラメータだけを更新できます。
- セルフプロビジョニング

# Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード

Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後でエンティティをインポートするときは、次の点に注意してください。

- BAT では、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager 間でのインポートおよびエクスポートだけがサポートされます。Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後は、ソース サーバとターゲット サーバの両方で Cisco Unified Communications Manager のバージョンが同じであることを確認してください。
- アップグレードの前にソース サーバで実行していた以前の Cisco Unified CallManager 4.x バージョンでは適切なアプリケーションユーザに関連付けられていたユーザグループの一部が、ターゲット サーバで実行している Cisco Unified Communications Manager のバージョンに適切ではない場合があります。そのようなユーザグループのインポート トランザクションは失敗します。

## [インポート/エクスポート(Import/Export)]メニューに関連する項目

- [設定データのエクスポート](#)
- [.tar ファイルの編集](#)
- [ログ ファイル](#)
- [上書き更新, \(5 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード, \(6 ページ\)](#)
- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード](#)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)
- [サーバからのファイルの削除](#)